

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：令和4年度島根県ボランティア学習事業コーディネーター養成研修
- 目的：島根県内外で活動するボランティア学習活動団体、学校及び教育委員会の事業推進ネットワークの構築方法と協働活動の展開手法に学ぶ
- 主催者：島根県教育庁社会教育課
（第25回日本ボランティア学習学会島根大会実行委員会）
- 開催日時：令和4年5月14日（土）14時00分～17時10分
- 会場：大阪健康福祉短期大学松江キャンパス
- 受講対象者：現在、ボランティア活動に協力頂いている方、
地域と学校の連携・協働に関わる役割を担っている方、
児童クラブ等職員、小学校教職員、高等学校教員、大学教員等
- 参加者数：20名
- 研修内容：
 - 講義 私が変わる、社会は変わる
～現代の教育とボランティア学習推進の課題～
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏
 - 内容 ボランティア学習の現代的課題と展望
 - ◎ボランティア活動の教育力を活用した学び
 - ◎福祉教育の3つの目標
 - ◎What is Service Learning?
 - ◎企画者のためのプログラミング評価の視点
 - ◎市民としての責任意識を育む
 - ◎つなぐ、つながる、わかちあう
ボランティアコーディネートは社会を変える
 - ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
 - ◎ボランティアコーディネーション
社会課題の解決のための協働社会の絆づくり
 - ◎子どもを育む「縁」を結ぶ
地域社会と学校が協働する学びを深める
 - ◎ユネスコが提案する21世紀の学び
 - ◎社会の課題を解決する学び
 - ◎コミュニティとともに学びあう活力ある学校
 - ◎コーディネーターの力はプログラム・メニューに現れる
 - ◎志しは高くボランティアのハードルはより低く！

◎コミュニティスクール×ソーシャルな学び

◎私が変わる、社会は変わる！

ワークショップ

「地域や学校におけるボランティア学習の推進課題と解決策」

<主な感想>

○講師の先生のお話は深く感銘を受けました。アメリカへ1人旅、友だちと、日本1周 etc.アレック・ディクソン氏との出会い等々、ユーモアがあり時に「クスッ」と笑いながら、わくわくしながら聞かせていただきました。講演の二部ではサービスマーケティング、ボランティア学習、ボランティア活動や、福祉教育の3つの目標等「なるほど！」とよくわかりました。また、市民学習やボランティアコーディネートについても、新しく学ぶ事ができました。地域社会と学校と協働し学びを深めることについても、「いつでも、どこでも、誰でもできる身近な活動から始める。志は高く、ボランティアのハードルは低く。」ですね。今回の講演をお聞きし「色々な事で嫌になった時」等、先生の資料を読み、先生のお話を思い出すと、「何を小さい事でくよくよしているのよ！」と前向きに考えようと気持ちを切りかえる事ができます。お話が聞けてよかったです。ありがとうございました。尚、資料に色々な情報があり大変参考になりました。①アレック・ディクソン氏の事、②世界人権宣言の(前文)9項目、③「生きる力」の定義等々、感謝いたします。

○今回は、午後3時頃に都合で退出致しましたので、講演二部以降は参加できず申し訳ありませんでした。興梠先生の講演内容は、初めて聞くことが多く、勉強になりました。興梠先生のこれまでの歩みを聞き、島根大会参加のご縁をいただいたことに感謝の思いが一層つよくなりました。研修については、感想を述べるに値しない参加でしたので、お礼を書かせていただくにとどめます。企画、開催をありがとうございました。

○アレック・ディクソンの「水に入らなければ、泳ぎを覚えることはできない」という言葉に感銘を受けた。「ボランティア」の敷居を下げ、まずは水に入る人を増やしていくことが必要だと感じた。

○興梠先生のお話を聞くのは初めてでしたが、先生ご自身のボランティア活動のきっかけから、グローバルな視点でのボランティアの意義と実践を学ぶことができました。ボランティアコーディネーターとして、誰一人取り残さないコーディネートを務めていく必要性を感じるとともに、実践をとおした学びの重要性を伝えていけたらと思います。

○先生にはお忙しいなか、本当にありがとうございました。興梠先生の迫力ある講義、大変満足いたしました。少ない人数でお聴きするのは、もったいない話でした。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：名取市地域コーディネーター研修会

■目的：地域と学校の連携・協働体制を強化しコーディネート機能の向上を図るため、地域と学校をつなぐ役割を担う地域コーディネーターをはじめ協働に関わる者の理解を深める機会とする。

■主催者：宮城県名取市

■開催日時：令和4年5月18日（水）13時30分～16時00分

■会場：名取市文化会館

■受講対象者：名取市地域コーディネーター、協働本部員、
公民館職員、教職員

■参加人数：36名

■研修内容：

講義「地域における関係機関との連携・協働活動について」
地域の未来をつくるは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏

内 容

- ◎地域学校協働活動とは
- ◎どうして今、連携・協働が必要か
- ◎連携・協働で育つ子どもたち
- ◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
- ◎社会教育機関としての公民館の役割
- ◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム
- ◎地域の課題を地域で考える
- ◎協働活動として実施される防災訓練・防災教育
- ◎推進員・コーディネーターの役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動
- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎協働活動ボランティアの楽しさ・喜びを意識するための工夫
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
- ◎活動事例

演習 ワークショップ
「活動の企画・立案、地域団体との連携のヒント」

<主な感想等>

■研修全体について

- ・いろいろな方と情報を共有できた。もう少し時間がほしかった。
- ・広く地域の活動の様子を見ることができた。
- ・みんなが一つになって課題に取り組めたのが良かった
- ・公民館のかかわりについてヒントが得られた。良い関係を築いていきたい。
- ・コーディネーターとして非常に参考になった。
- ・同じ志をもった皆さんと集い学んだり、話し合ったりする雰囲気良かった。

■講師の講話について

- ・他県の活動がヒントになった。もっと具体的事例を聴きたい。
- ・協働活動に関わり、2年目。学校の担当の先生が代わり戸惑いもある。講師の先生の話を生かして頑張りたい。
- ・具体的事例がとても参考になった。特に公民館の役割など子どもの自己肯定感 UP について参考になった。
- ・地域学校協働活動として公民館の果たすべき役割を学ぶことができた。育てたい子供像を学校に確認しながら、公民館として(地域として)何ができるか考えていきたい。
- ・社会教育や地域づくりに興味があるので大変勉強になった。高校の事例が多かったが、小・中学校の事例を教えていただけると嬉しい。

■ワークショップについて

- ・他の地域の苦労や仕事の仕方が分かった。
- ・とても良かった！参考になった。
- ・子どもの教育が大変理解できた。
- ・各地域の現状や意見を聴くことができ、大変勉強になった。自分自身の活動に役立てて行けたらと思う。
- ・他の地域の様子が分かった。コーディネーターとして何をしたらよいか分からない地域があることが分かった。学校と共有を図ることが必要だと感じた。
- ・各地区のコーディネーターの方の話を聴き、地域の特色や同じような課題があることを知ることができた。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：地域学校協働活動を推進するために
- 目的：地域学校協働活動推進員・支援員が主体的に活動したり、学校が地域と連携した活動ができるようにしたりするため
- 主催者：川西市教育委員会
- 開催日時：令和4年5月25日（水）14時00分～16時00分
- 会場：兵庫県川西市 キセラ川西プラザ大会議室
- 受講対象者：協働活動推進員、支援員、
小中学校管理職・幼稚園こども園園長等
- 参加人数：25名
- 研修内容：
 - 講義 地域学校協働活動を推進するために
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
 - 内容
 - 学校・家庭・地域の連携・協働の意義
 - 地域学校協働活動に関する知識
 - コーディネーター（地域学校協働活動推進員・支援員）の役割の理解

<主な感想等>

- ・無理な活動を無理して行うのではなく、今できることに取り組んでいきたいと思った。
- ・なぜこの活動が始まったのかという経緯から、具体的な取組まで話を聞くことができてよかった。
- ・各市町の具体的な取組を聞くことができ、イメージを持つことができた。
- ・理解は深まったものの、どう活動につなげていくかはまだわからない。
- ・学校、子どもを支えるだけでなく、地域を担う人材の育成というお話になるほどと思った。
- ・近隣学校と連携をしながら学校協働活動を進めていけると負担感が軽くなると思う。
- ・実際の事例を交えて教えていただいたことで分かりやすかった。
- ・これからの社会の中で、学校運営協議会は大きな力となることを実感できた。

具体的な内容によりイメージできた。

- ・具体的な地域の取組がとても興味深かった。
- ・質問時間が欲しかった。
- ・ワークショップなどで、各地区の交流ができたらよかった。
- ・活動員の仕事の内容がとても分かりやすかった。
- ・地域学校協働活動の支援員が何をするのかよくわからなかったが、今日の話で分かった気がする。もう少し映像を見たかった。
- ・地域の方の力を借りて、より良い学校、地域づくりを目指していく必要があると感じた。竜王小学校の取組は参考になった。
- ・地域学校協働活動本部が身近にあることが大切だと思った。学校の空き教室をうまく活用していったらいいと思う。
- ・全国各地の取組を知り、事例を学ぶことができてよかった。
- ・考え方、必要性は分かったが、支援員が求めている具体的なことがなかった。ワークショップがなかったのは残念。こんなことをするときにはこんなセミナー、研修会でうまくいったとか教えてほしい。支援員のニーズに合った内容だったのか。
- ・「学校応援団」に依頼できることがたくさんありそうだ。
- ・特定の人負担が大きくなりすぎないような体制づくりが必要だと思った。
- ・ウインウインの関係が持続可能な取組にと思った。
- ・学校と地域が互いに連携を図り、互いの要望が多くなりすぎて負担にならないようにする必要があると思った。
- ・教育委員会として、各学校園に具体的な活動の方法など、アドバイスしていきたい。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度第1回地域学校協働活動研修会

■目的：市内地域学校協働活動推進員の資質向上を図り、相互交流の場とする

■主催者：市川市教育委員会学校教育部学校地域連携推進課

■開催日時：令和4年6月1日（水）10時00分～12時00分

■会場：市川教育会館 3階 多目的ホール

■受講対象者：地域学校協働活動推進員

■参加者数：35名

■研修内容：

講義 「地域学校協働活動の全体と地域学校協働活動推進員の役割」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏

内容

- ・地域学校協働活動の概要について学ぶ
(求められる背景、国の施策、期待される効果について)
- ・地域学校協働活動推進員の役割について学ぶ
- ・実際の事例について学ぶ
(講師の経験談、横浜市の協働本部活動例から)

演習 「協働活動の実際」

- ・参加者同士、地域で育てたい子ども像・地域の宝物について意見交流を行う（ワークショップ内）

<主な感想等>

- ・コーディネーターの活動内容や存在意義がよく理解できた。奥の深い、人間性を問われる職種であり、責任の重さを感じた。
- ・学校側と一緒に大坪先生のご講演を聞いたかった。
- ・学校側がこの地域学校協働活動に取り組もうと思うかどうか、積極的になれるかどうか、その突破口を開くことが大きな課題であると感じた。
- ・コーディネーターの役割について再認識できた。原点に立ち返れた。
- ・今後の活動に見通しが持てた。イメージができた。(多数)
- ・他の地域の方々の話が聞けてとても参考になった。(多数)
- ・人を活かす視点を持って、ボランティアを募りたい。
- ・この活動は、子どもだけでなく大人も一緒に成長できる活動である。すべて平等、対等である。
- ・地域が子どもにどう関わるかが、子どもたちの未来に繋がっていることがよく分かった。
- ・ワークショップの時間がもう少しあったらよかった。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：「地域における学校と地域の連携・協働活動の意義とコーディネーターの役割について」

■目的：地域と学校とが連携・協働活動を進めるにあたり、年度当初において地域コーディネーターと学校(管理職・教職員)が共通理解を図る機会を持つ

■主催者：広陵町教育委員会

■開催日時：令和4年6月2日（木）13時30分～16時00分

■会場：広陵町役場 大会議室

■受講対象者：町内各小中学校の地域コーディネーターと管理職・学校地域担当教員、教育委員会職員、役場CS担当課職員

■参加者数：28名

■研修内容：

講義「地域における学校と地域の連携・協働活動の意義とコーディネーターの役割について」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内容

1. 平成27年12月中教審答申
その柱：「支援」から連携・協働へ
 - ①地域とともにある学校
 - ②子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
 - ③学校を核とした地域づくりの推進
2. 子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」
3. 連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」
4. 連携・協働のしくみ
5. 「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へ
6. 次のステップへ（R2～R4）
7. 地域学校協働活動の持続可能性（課題解決1）
8. 推進員（コーディネーター）の役割
9. 地域学校協働活動の持続可能性（課題解決2）
10. ボランティアの可能性が高い人々
11. ボランティアとの出会い

12. ボランティア活動を理解する
13. ボランティア団体・NPO組織論どんな集まりをつくるのか
14. 地域・学校が効果的に協働していくCSの事例
15. CSに関するデータ
16. 今後の方向性：学校を核とした地域づくり
社会に開かれた教育課程
17. プログラム作成のポイント
18. 学校を核とした地域づくり
19. 事例紹介
20. 連携・協働で育つ子供像
21. 地域学校協働活動の有効性

演習 「本日の講演を聞いて気づいた点を共有し、意見交換しよう」

<主な感想等>

- 学校運営協議会と地域学校協働本部の役割について理解を深めることができた。他地域の事例について知ることが出来、今後の活動の参考にしたい。
- コミュニティ・スクールの推進について、委員が充て職を中心に構成されていますが、大学生など若手の参加が必要とだ思う。新聞やテレビで取り上げられている社会問題、例えば「ヤングケアラー、不登校、いじめなど」校内で発生した場合の対応を協議する事項を取り上げ、学校、地域の支援体制の構築が必要だと思う。
- 立場の違ったメンバーでのワークショップは、とても有意義な研修となりました。立場が違うことで悩みや戸惑いなども聞くことができ、今後の活動の参考にさせていただきたいと思いました。
- 「地域の教育力を学校に生かしたい」というのは、学校の願いである。子どもたちの多様な学びにつながるからである。しかし、実際には二の足を踏むケースが多い。その大きな要因は打合せにかかる時間の負担があげられる。本日の講演で、打合せの時間を時間割に組み入れるという話があった。地域担当教員がCSに関わる業務を行う時間を時間割上に設定すると、地域コーディネーターと協議を行ったり、ボランティアの窓口となったりするのに都合がよいと感じた。(南部町の具体的な取組みを知りたかった。)
- 講義においては内容が盛り沢山で講師の先生の説明について行けなくて十分理解できず終わった感じでした。当方も予備知識が無いまま高度な講義であった為不十分な状態で講義が終わりました。言い訳では無いですが、内容を絞り込んだ要点で話して頂いたら良かったと思います。なに分経験の無い知識も無く高齢での講義大変でした。今後も知識と経験を高め努力して参ります。
- コミュニティ・スクールの流れがよくわかりました。本校はボランティアの方々を集めるところから出発で、課題もたくさんあります。コロナ感染のことも心配ではありますが、まず一步がふみ出せるようにコーディネーターや職員と連携をとっていきたいです。具体的な取組みをゆっくりと聞けたらありがたいと思いました。
- 形や表面上だけで認識していたものの実態が少し見えた気がして、気持ちが楽

になりました。学校側としては、準備等にかかる労力をいかに軽くできるか、またボランティアの活用で見込まれる子どもたちへのフィードバックをしっかりと考え、「やらされている」ではなく「一緒にしている」という思いをもちながら進めていくことが大切なことだと思いました。

- 先生方は積極的な人、そうでない人、個人差はありますが、転勤すれば、また地域は一から関係作りになります。校区の事はすべて共有したいが、行政の縦割なので、担当課が違えばつながりが切れてしまいます。年3回の会合では分かり合えませんので、せめて年6回は必要だと思います。連携・協働活動で保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化をどのように進めるかが課題です。
- 橋本先生の御講義とても参考になり励みになりました。学校側とボランティア側とのニーズがかみ合わない、学校だけへの支援で良い、と思っていましたが、地域と交流する中で子供達は育っていく事、学校支援から地域と共に、の方向性も考えていきます。まず、学校側と良く話し合いながら進めていきます。
- 連携・協働活動についてあまり考えられていなかった。今回の研修を機に地域と学校が今まで以上に連携・協働できるようにしていきたいと考えた。その一歩目としてコーディネーターさんとお会いし、お互いのおもいや考えを交流できる場を設定していきたい。
- コミュニティ・スクールの推進における本校の課題の一つに、教職員の主体性の育成がある。本研修前半では、本事業が必要とされてきた経緯や価値等について、大変丁寧に御講義をいただいた。参加した教職員が同じ立場で、本内容を伝達講習することで理解が深まり、地域運営学校の教員であるという自覚を促し、主体者としての育成につなげていく一歩となると考える。また、後半のワークショップでは、他校の方や異なる立場の方の御意見をお聞きすることで課題を共有し、解決のヒントもいただいたように思う。なお、今後他府県でもよいので、取組の進んでいる学校・地域の様子を詳しく聞かせていただけたらありがたい。講義中、口頭でご紹介のあった教員やボランティアの約束シート等のように具体の例ももっとお教えいただきたい。このたびは、ありがとうございました。
- 地域と学校の連携が事例のようになるまでの課程をもう少しわしく知りたい。昨年度、県の研修でも同様に地域ぐるみでの活動の事例発表もそうだったが、やろうと奮起する人が複数名いて盛り上がっていかなければ活動が受け身、義務感という所から抜け出せないと思う。また、学校を地域の人たちに開くというのは、そこに到達するまでの先生方の負担感(初期には今以上の不審者対応など)が大きく、現実的でないように思うが、地域の人たちが学校に通う何かがあれば、よりどころとして愛着がわき、校内清掃や花壇の手入れなど自発的にやりたくなるようにも思われます。1、2年で成し遂げるのも難しい気がします。その間に先生方も入れ替わるので、そこが一番難点です。
- 何よりも有意義だったのは、コーディネーター、管理職、担当教員、行政、4者によるワークショップです。各立場の方がどのような考えを持っているかについてよく理解でき、今後の参考になりました。
- 地域コーディネーターの方とお話することかでき良かった。どのように思っておられるのか、話す機会の大切さを確認できたものの、その時間を現場でどのように確保していくのか等、課題もあるということを経験した立場の方々と話すことができ有意義な時間となった。

- 地域と学校の協働体制が整い実動（働）し出すと、明らかに教員の働き方改革になると考えます。前任校では、連携・協働活動のはしりの様な取組が既になされていましたが、子どもたちの体験学習や校内緑化活動に至善と地域の方が関わってくださっていました。多忙な教職員が十分関わり切れない部分を上手くフォローして頂けていました。課題は、組織が軌道に乗り動き出すまでだと思います。学校側コーディネーター（Co）も、校内で主任や担任、部活動はじめ複数の分掌等を掛け持ちした状態で担当して頂いています。Coが教職員ならば、授業や分掌軽減をする。または非常勤スタッフさんを雇用し、システムや組織を構築し、実際に動き出せば、地域における学校という建物（組織）の存在意義は大変大きなものになると思います。どんどん学校に求められてくるICTや○○教育と銘打つ新たな取組に対しても、教職員に専門家は皆無で、新たに自己研修を積んでから子どもに向かい合わなくてはならず、既に教職員はオーバーフローしている状態です。そこに既に専門的な知識を有しておられる外部の方が入って頂けることは大変ありがたく、子どもたちだけでなく、教職員も学ぶことが多いと思います。広陵町は、町内に大学を持つ、数少ない立地条件であり、大学との連携は是非積極的に行っていきたいと考えます。学校内に（小）中学生から大学生、そしてシニアの方までが集い学び合う空間はとても素晴らしいものがあると考えます。
- 橋本先生のお話は大変勉強になりました。CS実施にあたり多くの課題はありますが、一つ一つクリアにして、子どもたちがより良い方向へ向かう手だてになればとイメージしています。希望もあり、不安もありと複雑な気持ちではありますが、多くの人々の力を借りて取組を進めたいと思います。貴重な時間ありがとうございました
- 昨年度からCSコーディネーターをお引き受けしましたが、何をすればいいのか分からない状態でしたので、今日の研修はとても有意義でした。特に先生方と同じタイミングでいっしょに研修を受けられたというのは共通認識を持つことができ、今後の活動にとってもよい結果をだせることになると思います。今後は学校と共働でニーズを見つけて、活動につなげていきたいと思います。そのために定期的にコーディネーター同士の情報交換の場を設けていただき、ボランティアの情報、活動の報告等をおこなって町全体で活性化していけたらと思います。
- ボランティアはコーディネーターの人脈！！と言われて、「どうしよう・・・」です。「性格的に声をかける」という行為は清水の舞台から飛び下りるくらいの覚悟が必要なのです。でも少しずつ頑張ります。コツコツと・・・。
- 同じ校区なのに小学校と中学校へのボランティア登録の数が大きく違うのは少しショックを受けました。今まで知らなかったことを知ることができたので良い研修になったと思います。
- 「地域といっしょに何かをする」ということに、教員はどうしても「仕事ふえるー！」だとか「めんどろ」のように感じてしまうコトがあるように思いますが、今日、地域のシニア世代で「ボランティアしたい！」というおじいちゃん、おばあちゃんたちがたくさんいることも分かり、うまく連携していける方法を少しずつでも探していきたいと感じました。何より「ボランティアしたい！」とおもっている人がたくさん地域にはいるということは、びっくりでした！
- 学校の先生もコーディネーターの方も、それぞれに限られた時間の中で苦勞されながら連携されているとわかった。今後まちづくりに関する連携と同じ場面

で壁に当たる（人集め・資金集め等）と考えられるので、課題を共有し、解決できる方法を模索していきたい。

- 講演とワークショップによって、これからの学校運営協議会及び協働本部の目指すべき方向性並びにやるべき内容が見えてきた。ワークショップの時間が足りないように感じた。
- 広陵町の現状をあらためて確認できました。教員、校長、CS、教委それぞれの考えを出しあうことであらたな発見もできよかったと思います。
- 地域と学校がうまく連携・協働できれば、とってもすてきな学校づくりができると思いました。ただ、軌道に乗るまで、理想と現実を埋める作業など、課題もたくさんあると思います。しかし、今回の研修会で一步踏み出せる良い機会になったと思います。
- 非常に詳しい資料とともに、町のCSの進行状況を踏まえた内容の丁寧な講演だった。さまざまな役職と学校をアランダムにグルーピングして、話しやすいテーマを設定し、話し合い方法を考えて、ワークショップを進めていただいたので、それぞれの意見を出し合い、話し合いを進めることができた。なによりもいろいろな立場の人が集まって、子どもたちのために学校と地域の連携・協働について話を出し合うことが一番大切だと感じた。人が集まれば、きっとできないことも（できないと思っていることも）、できるような気がした。
- 講師の橋本先生のお話が、時系列に沿ったたいへんわかりやすい話であり、広陵町の各学校が今後取り組まなければならない具体的なことを示していただいた。あまり時間がなく、他の自治体の取組が詳しく聞けなかったが、もっと話を聞きたいと思う講義でした。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度富山県地域学校協働活動推進員等指導者研修会

■目的：地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進が求められている背景や地域と学校の連携・協働活動の意義、地域学校協働活動推進員等に期待される役割等についての研修を行い、地域学校協働活動の活性化とコミュニティ・スクールに対する理解を深め、推進員等としての資質向上を図る。

■主催者：富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

■開催日時：令和4年6月3日（金）9時30分～12時00分

■会場：富山県総合教育センター

■受講対象者：市町村教育委員会、公民館関係者、地域学校協働活動推進員、
県・市町村の指導主事

■参加者数：29名

■研修内容：

講義 子どもを育む「縁」を結ぶ
～地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進と
コーディネーターの役割～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容

- (1) コミュニティベースの学びが求められる背景と意義
- (2) コミュニティ・スクールの社会的使命
- (3) 学校を支援するボランティア活動の実践例
- (4) 学校を支援するコーディネーターやボランティアの
役割とその力
- (5) 保護者や地域を巻き込む実践例

ワークショップ

地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進に
おける課題と解決策について

- ・情報交換（市町村の現状と課題、対応策等）
- ・発表、講評

<主な感想等>

- ・興梠先生の実例に基づいた講義がよかった。具体的でためになった。
- ・講義の時間が押したために、資料にあった内容を最後までしっかり聞くことができなかつたのが残念だった。(多数)
- ・地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進について少し理解した。
- ・人と人を繋げることの大切さとともに難しさも感じた。「学校」も地域とともに学び、成長できる場所になればよいと思う。
- ・ボランティアの姿(自発活動)から子どもたちが感化され、それがまたボランティアに返ってくる好循環が生まれることを改めて感じた。
- ・ボランティアの募集について、難しく、どうすればよいか具体的に知りたい。
- ・放課後子ども教室を開催する公民館としては、多様なスキルをもつボランティア等を集めることに興味があった。統合された小学校の地域なので、もちろん住民数も少ないし、人材にも限りがある。小学校区での学校を応援するボランティアが集まると活動もしやすくなると思う。
- ・公民館は人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ大事なところであり、コーディネーターとしての大事な役割を担っていると改めて思った。これからの教育は地域社会とのつながり、それを支えるボランティアの育成が重要になるということが分かり、これからの公民館に求められる役割を考えるよい機会になった。
- ・学校と地域が一体となって進めることで、子どもたちが問題の中から課題を見つけ、そして解決していく力を育てるのが大切であることを学んだ。
- ・コミュニティ・スクールについて、学校と地域での話し合いが必要である。学社協働という考え方を地域は知らないと思う。
- ・資料の中にある「少年は必要とされたとき、はじめて大人になる」がとても心に残った。このためにもコミュニティ・スクールが必要とされてきたのかと思った。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度 第1回岡山教育事務所管内市町生涯学習・社会教育関係
担当者会

■目的：地域学校協働活動に関する行政担当者が、地域学校協働活動の意義や
地域学校協働活動推進員の役割を理解し、活動を推進させていく上で
必要とする資質・能力の育成・向上を図る。

■主催者：岡山教育事務所生涯学習課

■開催日時：令和4年6月3日（金）13時00分～15時30分

■会場：ビデオ会議システム Zoom によるオンラインミーティング

■受講対象者：市町教育委員会地域学校協働活動担当者
コミュニティ・スクール担当者

■参加者数：34名

■研修内容：

講義 「地域と学校の連携・協働の意義」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏

内容

地域学校協働活動の推進に向けて

地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！

◎地域学校協働活動とは

◎どうして今、連携・協働が必要か

◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した
学習プログラム

◎地域の課題を地域で考える

◎地域課題に学ぶ 活動事例

◎推進員・コーディネーターの役割

◎ボランティア人材（人財）の活動

◎ボランティアをどう集めるか

- ◎協働活動ボランティアの楽しさ・喜びを意識するための工夫
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
- ◎活動事例

演習「社会教育関係課と学校教育課との連携について」

<主な感想等>

【講義について】

- ・具体的な地域連携の事例が多く、カリキュラム作成にイメージが湧いた。
- ・学校側の視点と地域側の視点を合わせるために、「子ども」を中心にすることでベクトルが合わせられると思った。
- ・推進員の役割がよく分かった。地域連携を進めていく上で、どのような方を地域学校協働活動推進員に委嘱するのがポイントだと思った。
- ・推進員の人材確保が課題になるが、複数人で補い合うことで円滑に活動できると分かった。

【演習について】

- ・学校教育と社会教育の連携は、今後一層強めて行かなければならないことを感じた。
- ・同じ研修に参加したり、日常的に情報交換したりすることが大切だと思った。
- ・社会教育側としては、連携の必要性を感じているが、学校教育側がどう思っているのか、相互に連携の必要性を考える機会が必要だと思う。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：第1回「～恵庭市の学校・地域をつなぐ～コミスクかふえ！」
- 目的：本市のコミュニティ・スクールの設置・運営に関して、各小中学校での取り組みに違いがあることから、今後のコミュニティ・スクールや地学協働を全市的に進めていくため、関係者が集まり、情報共有や意見交換を行う。
- 主催者：恵庭市教育委員会（共催者：コミスク PLUS）
- 開催日時：令和4年6月13日（月）18時00分～20時00分
- 会場：恵庭市民会館3階中ホール
- 受講対象者：学校関係者、地域住民・学校運営協議会委員、市議会議員、社会教育委員
- 参加者数：98名
- 研修内容：
 - 講義「地域と学校が協働で子どもたちを育むためには」
地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子氏
 - 内容
 - ◎地域学校協働活動とは
 - ◎どうして今、連携・協働が必要か
 - ◎連携・協働で育つ子どもたち
 - ◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
 - ◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム
 - ◎地域の課題を地域で考える
 - ◎推進員・コーディネーターの役割
 - ◎ボランティア人材（人財）の活動
 - ◎ボランティアをどう集めるか
 - ◎公民館の役割
 - ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
 - ◎活動事例
 - ◎講師からの助言等

<主な感想等>

- ・学校教育で今後行わなければならない課題や地域との関係を考えさせられた。
- ・教員として社会教育に関わり続け、地域と一緒に子どもを育てたい。
- ・地域と学校が協働できない学校に教師として赴任した際、どのように働きかけて地域との連携を持てば良いか知りたい。
- ・コミスクと学校教育との連携は利点と困難が同時に存在するが、子ども達にとって必要な「学びの場」であるので、気軽な雰囲気でもコミスクを推進する学校が増えると良いと思う。
- ・本日の研修に大学生が興味を持って参加しており、素晴らしいと思う。
- ・子ども達を地域で育む観点から、自分も地域の一員として支援していきたい。
- ・年に数回開催して欲しい。学校は地域の中心であることから、学校へ気軽に集まることのできるコミュニティ・ルームを各校に設置して欲しい。
- ・講師の資料は丁寧である反面、一画面の情報量が多すぎて読みにくい。
- ・参加者からの質疑応答時間を増やしてほしい。
- ・コミスクが一人歩きとならぬよう大人の理解者を増やすべき。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：地域学校協働活動コーディネーター等に関する研修会
- 目的：地域と学校の連携・協働を推進するに当たって、関係者の理解促進と地域学校協働活動コーディネーター等の地域の核となる人材の育成を図り、今後の取組の充実につなげる機会とする。
- 主催者：茨城県水戸生涯学習センター
- 開催日時：令和4年6月17日（金）14時00分～16時00分
- 会場：茨城県水戸生涯学習センター 大講座室
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員（コーディネーター）、
地域コーディネーター、
市町村生涯学習関係職員、小・中学校職員、
放課後子ども教室・放課後児童クラブ（学童クラブ）指導員、
自治会（町内会）役員、NPO職員、
学校や子供達に関するボランティア等に興味のある方
- 参加者数：80名
- 研修内容：
 - 講義「地域と学校の連携・協働について」
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
 - 内容
 - 1 はじめに
 - ・教育の領域（場）
 - ・社会教育とは
 - 2 地域学校協働活動とは
 - 3 学校・家庭・地域の連携の必要性
 - ・保護者
 - ・地域の学校経営参加の仕組み
 - 4 地域学校協働活動の必要性
 - (1) 中央教育審議会答申
 - (2) 学習指導要領の改訂（平成29年3月）
 - (3) 地域学校協働活動を進めるための法律改正等
 - (4) 第3期教育振興基本計画

- 5 地域学校協働活動の方向性
～連携・協働と総合化・ネットワーク化～
 - (1) これからの地域学校協働活動のキーワード
 - (2) 地域学校協働本部（社会教育プラットフォーム）の必要要素
 - (3) 学校・家庭・地域の連携による地域学校協働活動を進める視点
 - (4) 連携・ネットワークを進める際の留意点
- 6 地域学校協働活動の内容
 - (1) 地域学校協働活動の現状
 - (2) 今後求められる活動内容
- 7 コーディネーターの役割
 - (1) コーディネートとは
 - (2) 地域におけるコーディネーターのしごと
 - (3) コーディネーターに求められる資質・能力
- 8 皆さんへの期待

<主な感想等>

・馬場先生のお話の中で、地域を再構成する、大人の教育も兼ねているというスタンスを忘れない、というお言葉がありました。win-winの関係を構築できるように、学校現場で取り組んでいこうと思います。本日はありがとうございました。

・来年度より、コミュニティー・スクールを導入する予定ですが、本年度の内に、組織案や予算、学校教育の年間計画等、様々な準備があるため、具体的な進め方を学んでいきたいと思います。地域と学校の連携・協働の意義についてたいへん参考になりました。ありがとうございました。

・愛媛県松山市のふれあい食堂の活動は、地域の困りごとをマッチングして解決した良い事例ですし、奈良県奈良市では、子どもたちが主体となって地元、企業を巻き込んだことが好循環となったとても良い事例だと思います。作物を育て、調理をして、商品にして、販売をする。これは学びが生き抜く力になるもっともよい形なのかなと思いました。徳島県佐那河内村の村育では、コーディネーターの方が良い働きをされていて、このようなキーマンがいると子どもたちが活性化すると実感しました。茨城県もこのような形を実現したいです。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：令和4年度 地域学校協働活動運営会議研修会
「学校と地域の連携の在り方とコーディネーターの役割について」
- 目的：地域学校協働活動推進員及び公民館職員の資質向上と意識の高揚を図り、地域総がかりで教育活動に取り組む環境を醸成する。
- 主催者：会津若松市教育委員会 生涯学習総合センター
- 開催日時：令和4年6月20日（月）9時30分～11時40分
- 会場：会津若松市教育委員会 生涯学習総合センター1階 多目的ホール
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員及び公民館職員
- 参加人数：40名
- 研修内容：
 - 講義 「学校と地域の連携の在り方とコーディネーターの役割について」
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏
 - 内容
 - ・国の方針が「支援」から「連携・協働」に変わり、子どもたちを取り巻く社会環境も変化し、求められる力は「社会的に異質な集団での交流」「道具を相互作用的に活用する」「自律的に活動する」になってきている。そうした中で、地域との連携・協働は子どもたちの「生きる力」「人間力社会力」を育む目的で推進されている。
 - ・地域学校協働本部は学校、子どもへの支援を「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」するもの。令和5年度からは次のステップへ移行する予定。
 - ・地域学校協働活動の持続可能性は、「CSの今後の方向性」「学校の受け入れ態勢」「ボランティアをどう集めるか」にかかっている。
 - ・コーディネーターの役割は、支援を求める、地域に貢献する教員や生徒のニーズ、状況、気持ち等を一方でボランティアの方のニーズ、技能・性格等を集めたり受け止めたりしながら、地域を結び、ケアをしながら先につ

なげていく役割を担う。

・ボランティア活動をする可能性の高い人々は学生、子育て世代、シニア世代と様々。ボランティア活動の性格を受け止めながら喜びを感じるものへ。

・地域資源を活かした学びのプログラムにより、学校を核とした地域づくりにできると良い。

ワークショップ

・講演を聞いて気づいた点を共有し、意見交換を行った。

<主な感想等>

- ・改めて「学校と地域の連携の在り方とコーディネーターの役割」について理解を深めることができた。
- ・ためになる話だった。もう少し時間をかけて講演を聞きたかった。
- ・全体的に人数が多くなったので学校とのつながりが上手くいっていないところが多い。校長会等で受け止め方を話して欲しい。教員にも研修が必要。
- ・ワークショップであげられた課題をいかに解決していくかが今後の課題だと感じた。
- ・ほかのコーディネーターと情報交換出来て良かった。講師の先生の話聞いて、コーディネーターの役割、使命を確認することができた。
- ・ワークショップでほかのコーディネーターとの情報交換がとても有意義でした。もう少し時間が欲しかったです。
- ・現在の状態とこれからの方向性について確認できた。先進的な地域を知ることがとても参考になる。
- ・講義を聞いて今後の方向性が見えてきた。
- ・講演が分かりやすく、生かせることも多いと感じた。
- ・施行して数年しての実践例を前提としての課題、改善案、改善策等について話し合いたい。
- ・講演の内容は一般的・基本的な考え方であり会津若松市の実態とかけ離れている面が多い。この内容を実現しようとするれば、学校には2名の増員が必要であり、現在のスタッフ数では処理不可能。予算面の考慮も必要である。そのため、各校の実態に応じた取り組みを精選し、できる内容を重点化した計画を作成すべき。学校が抱えている課題を十分把握して対応することが重要であると認識している。ずれを感じる。
- ・理想と現実にまだギャップがあるが、すこしずつ前進したいと思う。
- ・子どもたちのために何ができるのか改めて考える時間を与えて頂いた。他地区の方と話ができて、それぞれの学区の抱えている課題等を知ることができた。
- ・令和4年度の実践を進める中で「地域も学校も win-win になる」ことについてずっと考えている。学校は要望を出した立場なので win は大きいですが、地域の人々の win は？これこそがコーディネーターの大切な役割だと思った。大切な根幹に戻れた。

- ・ワークショップは、悩みをもって集まっているから集約したり、意見を聞いたりととても有意義だった。惜しむらくは時間が欲しかった。
- ・先生のお話はとても示唆に富むもので、もっと時間をかけてじっくりお話を聞きたかった。
- ・多くの方にボランティアとして参加して頂いている。学校の求めに応じて支援に入っているが、何の目的でどのように入っていくかを意識しながらコーディネートしていきたい。地域学校協働活動を通して地域づくりを目指して努力していきたい。
- ・協働活動の役割について理解を深めることができました。大変勉強になった。
- ・なぜ今地域学校協働活動が必要なのか、日本の教育がこのままでは危うく、子どもたちに新しい時代に対応する力をつけてもらうため、先生だけでなく親、地域の大人もできる事で「教育」に参加してもらうのが大切だと分かった。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：地域学校協働活動推進員養成講座（第1期）

- 目的：（1）コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、コーディネートするにあたり必要となる基礎的知識の習得と資質の向上を図る。
- （2）各地の実情にあった学校と地域の連携・協働の在り方を考えるきっかけを提供する。
- （3）日頃抱えている悩みや課題の解決を図るとともに、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、担当者間のネットワークの形成を図る。

■主催者：山形県教育委員会

■開催日時：令和4年6月24日（金）9時50分～14時10分

■会場：山形市男女共同参画センター・ファーラ 5階 視聴覚室

■受講対象者：地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、地域と学校の連携・協働に関わる役割を担っている方、市町村教育委員会担当者、学校教員等

■参加人数：38名

■研修内容：

講 義 「子どもを育む「縁」を結ぶ～地域と学校との連携・協働活動の意義とコーディネーターの役割～」

講 師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏

内 容

第1部 講演

- ・コーディネーターは、ボランティアを必要としている人とボランティアをする人との相互理解を形成すること、信頼関係を築く重要な役割をもっている。
- ・ボランティアをコーディネーションするための6つの指標がある。
- ・少なくとも1年に1回以上は、業務の自己評価をし、振り返る時間をとることが重要である（自己評

価のポイントは8つある)

- ・コーディネーターというのは地域学校協働活動に関わる人の役職に限らず、企業、大学等にも存在し、世界中でも活躍している実態がある。

第2部 ワークショップ

- ・参加者が5つの視点（①学校②地域③家庭④行政⑤コーディネーター）に沿って成果と課題を付箋に書き、大判用紙に貼りながら情報交換した。最後にグループ毎の発表もあり、全体でも情報共有することができた。

<主な感想等>

- ・ボランティア活動では横綱級の興梠先生にご教授頂き大変学びも多く、今後の活動に役立てたいと思う。ありがとうございました。
- ・講演からは地域と連携していくことの可能性、おもしろさを感じることができた。ワークショップでは他地域の状況を情報交換することができ、自分の学校で取り入れてみたいと感じた。
- ・内容は今後の地域学校協働活動を支える土台となるものだった。時間の制約があり、もっとお聞きし、ワークショップも深めたかった。
- ・課題についてのワークショップがとても良かった。みんな悩みや課題があり、情報交換できて、これから参考できることがあって勉強になった。
- ・ワークショップはみなさんがたくさんしゃべり、それぞれのお考え、実践をお聞きできて良かった。解決の和が見つけられた研修会となった。
- ・コーディネーターさんの意見を直接聞くことができた。また、興梠先生の講演も今後の活動に参考になった。ワークショップの時間が足りなかった。
- ・自身の活動内容について、できることから少しずつはじめるために具体的な事柄が思い浮かんだのでとても良かった。「縁」という言葉、いいですね。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度 地域学校協働活動推進のためのコーディネーター研修

■目的：地域全体で子どもたちの成長を支え、地域づくり・人づくりを目的とした地域学校協働活動を推進するため、関係者の理解促進と地域学校協働活動推進員の育成を図るとともに、今後の取組の充実につながる機会とする。

■主催者：福岡県教育委員会（主管：福岡県立社会教育総合センター）

■開催日時：令和4年6月27日（月）10時30分～16時10分

■会場：福岡県立社会教育総合センター 講堂

■受講対象者：地域学校協働活動推進員、社会教育関係者、学校関係者

■参加者数：108名

■研修内容：

講義 「地域・学校が効果的に協働していく地域学校協働活動の在り方について」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内容

1. 平成27年12月中教審答申
2. 子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」
3. 連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」
4. 連携・協働のしくみ
5. 「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へ
6. 次のステップへ（R2～R4）
7. 地域学校協働活動の持続可能性 課題解決(1)
8. 推進員（コーディネーター）の役割
9. 地域学校協働活動の持続可能性 課題解決(2)
10. ボランティアの可能性が高い人々
11. ボランティアとの出会い
12. ボランティア活動を理解する
13. ボランティア団体・NPO 組織論
14. CSの事例
15. CSに関するデータ
16. 今後の方向性：学校を核とした地域づくり
社会に開かれた教育課程

17. プログラム作成のポイント
18. 学校を核とした地域づくり
19. 連携・協働で育つ子供像
20. 他の地域の事例
21. 地域学校協働活動の有効性

演習 地域の教育資源を生かした地域学校協働活動の実現に向けて

<主な感想等>

○学校担当地域コーディネーターや地域学校協働本部のコーディネーターの役割や立場をわかりやすく解説していただきありがたかった。地域とのかかわりの意義を理解することができた。

○いろいろな実践を紹介していただき、地域貢献という考え方が大切だと分かった。

○校長が異動すると地域と学校とのかかわりが変わることをどうするかという課題があったが、もっと、地域と学校がつながって行って、地域が土台となるとスムーズにいくことがよく分かった。

○地域をもっと知り、子供たちへ何を残したいか皆で協議することの大切さを学んだ。

○通常の実践に一工夫加えることで、子供の成長を促す効果的な実践にすることを意識できた。

○立ち上がったばかりの協働本部だが、ここまでいろいろ取り組んできた。しかし、学校・PTA・地域が協力し合う雰囲気がなかったので、それをほぐしていけるような架け橋になれたらと思う。

○特に興味深かったのは、学校に「憩いの場」を作ること。地域の方はもちろん保護者にとっても学校は敷居が高いように感じている。実現に向けて探っていきたい。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：こどもを育む「^{えにし}縁」を結ぶ
～みんなで作るコミュニティスクール～
ボランティア活動コーディネーター養成研修会
- 目的：各地域パートナーシップ事業の中心となるコーディネーター及び活動協力者の資質向上を図り、相互の意見交流の場とする
- 主催者：新居浜市立大生院公民館
- 開催日時：令和4年7月9日（土）14時00分～17時00分
- 会場：新居浜市立大生院公民館 2階 多目的室
- 受講対象者：現在、各学校でボランティア活動に協力いただいている方、
学校支援ボランティアを実践している方、
放課後子ども教室・放課後児童クラブ等職員、
地域と学校の連携・協働に関わる役割を担っている方、
小・中学校教職員、PTA関係者等
- 参加人数：39名
- 研修内容：
 - 講義 こどもを育む「^{えにし}縁」を結ぶ
みんなで作るコミュニティスクール
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏
 - 内 容
 - <講義>
 - 第1章 つながる、つなぐ、分ちあう
 - ◎子どもは、だれの子？
 - ◎こどもを育む「縁」を結ぶ
 - ◎ユネスコが提案する21世紀の学び
 - ◎日本の教育目標とは何か「生きる力」
 - ◎社会に開かれた教育課程
 - ◎社会に開かれた学校
 - ◎地域学校協働活動とは
 - ◎コミュニティスクールの社会的使命
 - 第2章 コミュニティに秘めた教育力に光をあてる
 - ◎7つの秘められた力

- ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
- ◎ボランティアコーディネーター
- ◎コーディネーターのための自己評価ポイント

第3章 コーディネーターの「壁」を超えるために

- ◎コミュニティの「壁」を超えて行動を起こす
 - ・つながる「壁」、つなぐ「壁」、わかちあう「壁」
- ◎2つのプログラム実践事例から考える
 - ・千葉県木更津市教育委員会の事例から
 - ・神奈川県横浜市都筑区・東山田中学校区の事例から

第4章 子どもたちが必要とされるチャンスをも！

- ◎もっと社会へ、もっと世界へ飛び出そう！
- ◎水に入らなければ泳ぎを憶えることはできない
- ◎ボランティアに秘めた3つの学び
- ◎コミュニティを教室にしたアクティブな学びを！
- ◎無限に広がる公民館の可能性
- ◎“縁結び人”になろう

<ワークショップ>

- ◎意見交換「コーディネーターの課題と解決策」
- 視点1:学校の課題
- 視点2:地域の課題
- 視点3:家庭の課題
- 視点4:教育行政の課題
- 視点5:コーディネーターの課題

<主な感想等>

<講義>

- ・先進地の事例が分かりやすく、今後の活動に取り入れたい。
- ・コミュニティスクールのイメージ、効果が分かった。
- ・講義がとても分かりやすく、とても勉強になった。

<ワークショップ>

- ・様々な立場の方と情報共有・意見交換ができ、非常に有意義な時間であった。
- ・いろいろな方面からの視点で、いろいろためになった。
- ・地域の中で子どもたちの活躍する場をつくるためにも、地域の方と関わる機会を大事にしたいと思った。
- ・それぞれの意見の違い、役割の違いがあって、興味深かった。

<全体>

- ・横の連携を取りたい。
- ・自由に発言ができて、良い研修だった。
- ・ワークショップの時間がもう少しあればよかった。そのくらい話が盛り上がり、充実したディスカッションができた。
- ・今後の活動の道筋が見えてきたような気がする。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座

■目的：学校と連携・協働して地域を創生する「地域学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図ることをねらいとする。

■主催者：三重県教育委員会

■開催日時：令和4年7月14日（木）13時00分～16時30分

■会場：三重県教育文化会館 5階 大会議室

■受講対象者：地域学校協働本部、放課後子ども教室のコーディネーター及び関係者、放課後子ども総合プランの関係者、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の関係者、子ども支援ネットワーク推進教員、地域連携担当教職員等コーディネーター的役割を担う教職員、社会教育委員、社会教育主事、公民館職員

■参加人数：57名

■研修内容：

講義 令和4年度【第1回】地域学校協働活動推進のための
コーディネーター養成講座

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏

内容

1. 地域学校協働活動とは

- (1) 地域学校協働活動の定義
- (2) 地域学校協働活動の方向性
ー連携・協働と総合化・ネットワーク化ー
- (3) コーディネーターの育成・確保がカギ
- (4) コーディネーターに求められる資質・能力

2. コミュニケーションの意義と役割

- (1) コミュニケーションとは
- (2) コミュニケーションの手段
 - ①言語コミュニケーション
(Verbal Communication)
 - ②非言語コミュニケーション

(Nonverbal Communication)

- (3) コミュニケーション能力を構成するスキル
- ①言語コミュニケーション
 - ア. 言いたいことを伝える力 (言語化能力)
 - イ. 相手の言葉を「聴く力」(傾聴)
 - ②非言語コミュニケーション
 - ウ. 非言語を「伝える力」
 - エ. 非言語を「読み解く力」

3. アサーティブトレーニングについて

- (1) アサーティブ (assertive) とは
- (2) アサーションを身に付けるメリット
 - ①自分を表現できる
 - ②相手を大切にできる
 - ③コミュニケーション・リスクを回避できる
- (3) アサーションにおける自己主張の3タイプ
- (4) アサーティブを実現する3つの方法
- (5) アサーションを実践する際のポイント

ワークショップ

グループ討議①～⑥

「学習プログラムの意義と内容
(アクティブラーニング等)」

<主な感想等>

- ・アサーティブトレーニングを初めて体験しました。ノン・アサーティブからアサーティブへ自分自身が変わることの難しさを感じました。同時に本日の研修によって、変わることへの勇気を、馬場先生をはじめ本日参加された受講生(とりわけ班の皆さん)からいただきました。今後、地域活動の中で生かしていければと思っています。
- ・様々な立場の人、様々な考え方の人。そうした人々の集まる中で、どうコミュニケーションをとっていくかということの何かが得られたように思います。難しい課題ですが、困難に少しずつ挑戦していき、解決の方針を見つけたいものです。
- ・アサーティブ・コミュニケーションについて、初めて学べる機会となりました。グループ討議は難しくはありましたが、自分を表現しつつ相手を大切に、ということのをこれから心にとめて活動していきたいと思っています。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：地域学校協働活動推進員等研修

■目的：地域学校協働活動推進員等を主対象とし、地域住民と学校関係者との連絡調整や地域学校協働活動の企画を行う知識及びスキルの向上を図る。

■主催者：熊本県教育委員会（主管：熊本県阿蘇教育事務所）

■開催日時：令和4年7月15日（金）13時30分～16時30分

■会場：国立阿蘇青少年交流の家 2F 大会議室

■受講対象者：統括的な地域学校協働活動推進員、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会担当者及び学校地域連携担当者

■参加人数：41名

■研修内容：

講義 「地域と学校の連携・協働における推進員の役割と
コーディネートについて」
地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！

講師

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
コーディネーター 大坪 直子 氏

内容

- ◎地域学校協働活動とは
- ◎どうして今、連携・協働が必要か
- ◎連携・協働で育つ子どもたち
- ◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
- ◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム
- ◎地域の課題を地域で考える
- ◎地域課題に学ぶ活動事例
- ◎推進員・コーディネーターの役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動
- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎ボランティアにはどのように協力してもらうか
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
- ◎活動事例

<主な感想等>

- ・大坪先生のお話を聞いて「地域とどのようにつながって、どんな子どもたちを育てたいのか」という現場での悩みを解決するヒントをいただいたような気持ちになった。
- ・今後の取組の方向性や活動のあるべき姿がどんなものなのか知ることができて参考になった。実践に繋げていきたいと思う。
- ・目標やビジョンの共有を図ることの重要性を改めて感じた。地域についての学習や地域の方から学ぶ取組から郷土愛を育み自尊感情の高まりを期待したい。
- ・何か工夫をしながら進めていくことと目的に沿った活動を進めていくことが大切だと感じた。
- ・企画、立案、改善にしっかりと役立てていきたい。
- ・推進員の方と話し合いながら、よりよい方法を考えていく必要があると改めて感じた。
- ・話を聞いて、推進員や地域の方が自由に利用できるフリースペースを学校に作っていきたいと思った。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：地域学校協働活動推進員等養成講座

■目的：学校、家庭、地域が連携・協働し、社会総がかりで子供を育てる環境作りを推進するため、地域住民と学校関係者との連絡調整や活動の企画を行うための知識やスキルの伝達をとおして地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）等を養成する。

■主催者：静岡県教育委員会社会教育課

■開催日時：7月21日（木）10時00分～16時00分

■会場：静岡県総合教育センター

■受講対象者：

市町の地域学校協働活動への参画や地域学校協働活動推進員、地域コーディネーターとしての活躍が期待される方

■参加人数：21人

■研修内容：

講義 子どもを育む『^{えにし}縁』を結ぶ
～コーディネートの方法と
コーディネーターの役割について～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容

第1章 つながる、つなぐ、分ちあう
第2章 コミュニティに秘めた教育力に光をあてる
第3章 コーディネートの「壁」を越えるために
第4章 子どもたちが必要とされるチャンスをも！

演習

コーディネートの「壁」 越える新たなチャレンジ！

<主な感想>

- ・コーディネートの立場、役割、考え方などのイメージができた。
- ・自分の足で歩きボランティアを探す。そこでの会話はとても大切だということがわかった。
- ・ボランティアを楽しんでやっている自分の姿を見て、子どもたちのボランティア精神も育つという言葉が心に残った。
- ・海外の事例も踏まえて講演していただいて、とても興味深かった。
- ・「コーディネーター」や「ボランティア」の考え方と価値付けが大変勉強になった。興梠氏の著書を読みたいと思った。
- ・社会に開かれた教育過程は大切。コミュニティースクールの社会的使命が重要だと思った。
- ・21世紀の教育という大きなバックグラウンドと具体的な事例紹介があり、中身の濃い講義だった。とても参考になった。先生のご著書等を読んで勉強していきたいと思う。
- ・日本の教育はまだ遅れていると感じた。他国が必ずしも良いとは限らないが、世界へ出ていく可能性のある子ども達の教育は、今よりもっとスピードアップして取り組んでいくべきだと思う。そのための役割と責任をCSディレクターとして努めていけるよう学校と協力して頑張っていこうと思う。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：コーディネート（連絡・調整、助言・指導）機能の強化、
充実に向けて
- 目的：学校と地域間の連絡調整役として中核となる地域コーディネーター
のコーディネート機能の強化、充実を図る
- 主催者：新潟県南魚沼市教育委員会 学校教育課及び社会教育課
- 開催日時：令和4年7月25日（月）13時10分～16時20分
- 会場：南魚沼市役所本庁舎 2階 大会議室
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員、
学校関係（校長・教頭・教務主任・事務職員）
統括的地域学校協働活動推進員、市教育委員会担当部局等
- 参加人数：39名
- 研修内容：
 - 講義 コーディネート（連絡・調整、助言・指導）機能の
強化、充実に向けて
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏
 - 1. CSと地域学校協働活動との一体的推進とあるが・・・
 - 2. 一体的推進の効果は、あることはある・・・
 - 地域学校協働活動
子どもたちにとっていいこと
学校・教職員にとっていいこと
地域にとっていいこと
 - 3. 先進事例から何を学ぶのか。
 - 三鷹市の事例紹介
 - 先進事例から学ぶ視点
 - 4. 決めるのは皆さんです。
 - 平成29年の地教行法改正
 - 一体的推進の実質化 “CS”から“SC”へ

ワークショップ

中学校区内での小・中学校ごとの教職員及び地域学校協働活動推進員にて、4～5名で班編成（全9班）を行った。ワークショップでは、ブレインストーミングの方式を取り入れながら、「他者の発言に対する受容」や「発言者に対して否定しない」等を大切に、協議を行った。

協議では、全班共通した内容を定め、①自己紹介②今研修会の趣旨においての課題抽出③課題に対する対応、方策を柱にし、それぞれ付箋紙や模造紙を使いファシリテーションを行う。協議内容の発表では、研修時間の制約もあり主に指名された3つの班が、抽出された課題、それに対する方策等について具体的に発表するとともに、他の班についても協議概要の簡潔な報告を受けながら、全班の共有を行うことができた。

<主な感想等>

- ・一律に同じではなく、実態に合わせた組織づくりをしていきたい
- ・次年度に向けて、準備を加速していかなければと感じた
- ・納得解を求めて、動くこと、考え出来ることに着手していきたい
- ・現状と課題を把握できた
- ・やるべき方向が少しわかった
- ・このような議論の場を地域で持てるといいと感じた
- ・学校と地域が会話できる機会の増大が必要と強く感じた
- ・他地域の発表に悩みは同じだと励まされた
- ・ワークショップでは、近隣校の教職員やコーディネーターとじっくり話すことが出来てよかった
- ・CSについてまだ理解が出来ない
- ・「CSのゴールがわからない」という声には、答えがほしかった
- ・講師の話は少し高度であった
- ・CS導入については不安だが、意見交換や実践事例を聞いて参考になった
- ・コーディネーターとして、何をどう工夫するのか、よい学びとなった
- ・コーディネートの大切さ、重要性がわかり今後は心配
- ・市としての方向、他地域学校の動向などを、地域・学校・PTAなどへわかりやすく周知し活動を進めてもらいたい
- ・やるしかないが、「学校は大変」と気が重くなる研修であった
- ・しっかりと自分ごとにし、考えていかななくてはいけないと思った

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度つがる市地域学校協働活動研修会

■目的：地域学校協働活動が始動して2年目に入り、コーディネーターが業務をさらに円滑に進めていけるように研修会を開き、今後に活かしてもらうことを目的とする。

■主催者：つがる市教育委員会

■開催日時：令和4年7月25日（月） 14時30分～16時00分

■会場：つがる市生涯学習交流センター「松の館」2階視聴覚室

■受講対象者：つがる市地域学校協働活動推進員、つがる市立小・中学校担当職員及び地域住民

■参加人数：19人

■研修内容：

講義 「コーディネーターによる学校のニーズと地域ボランティアを繋げる効果的な方法について」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

概要

国が示す地域学校協働活動への取り組み方やこれからの子ども達を育てていくために周りの大人や環境がどのようなことをした方が良いのかを文部科学省等のデータをもとに講演いただき、また、他自治体での取り組みを参考につがる市ではどのようなことができるのか助言をいただいた。地域学校協働活動での推進員の役割やボランティアをお願いする世代ごとのニーズや状況も詳しく説明いただき、今後の活動に役立つ講演だった。

<主な感想等>

- ・橋本先生のお話をお聴きし、当市でも地元の歴史教室（過去に市民を対象に実施済）を小中高等に向けて開催し、見学・資料作成（体験作成）をしていければと思います。是非、過去実施 NPO 団体、教育委員会には考えていただきたいと思います。
- ・全体的に説明に時間が多くとられていましたが、内容をしばってくれたらいいと思いました。
- ・自分の得意としているものがこれからのボランティアとして活動できるようになればいいなと思いました。活動協力できる日はぜひ協力してやりたいと思いました。
- ・大変参考になりました。地域学校協働活動については地域の大人が示し関わること、つまり子ども達と共に活動していくことが最終的には大人も子どもも地域の再発見につながると思う。
- ・内容のボリュームが多いので分割でも良かったのではと思いました。
- ・講演はとても参考になりました。
- ・学校教職員と地域住民、生徒達とが（特別なイベントでなくても）集える場があればいいという先生の言葉がすごく響きました。ただ私事で申し訳ないのですが、本職がある人間（私＝コーディネーター）がコーディネーターとして働くには限界があります。教えてくれる方不在。正直とてもつらいです。集まらない人、何も出せない成果。（先生方は忙しい中とてもよくしてくれてはいるのですが、私自身報いてないようで本当につらい）来年度は本当に出来る方にやってもらった方がいいと思います。
- ・活動がなかなか進まない現状がある。話にもあったが先生が変わってからはまだまだ進まなくなっている。ここは問題があるかなと思う。
- ・色々な世代の思考している部分を分かりやすく理解することができました。個別最適な学びの必要性を再確認できました。地域の課題についても納得しました。
- ・具体的な事例の説明を聞くことができ、このつがる市でもチャレンジしてみたいと強く思いました。支援されるだけでなく、子どもたちの自主的な力を引き出せるように工夫できる活動ができたらなと思いました。
- ・つがる市のイベントの企画にも小中学生が参加できそうだなと思いました。
- ・普段から地域でイベント等の活動をしています。学校の協力を得ることの難しさを感じていました。これからはめげずに子ども達と一緒にできるようがんばりたいと思います。
- ・具体的事例を豊富に提示していただきとても分かりやすかったです。ただ、配布された資料に基づいた講演内容だったので必ずしも対面式でなくてもよかったのではないのでしょうか。
- ・将来的には、地域へと活動を進められるといいのだとわかりました。でも、学校での学習支援の活動で精一杯という状態です。だんだんと発展させることができればよりベストなのだと思います。
- ・詳細お話をいただいて勉強になった。
- ・具体例が現実的でわかりやすかった。「子ども達に力はある」というのはその通りだと思いました。ありがとうございました。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：令和4年度学校・家庭・地域連携推進事業
「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の
一体的な取組推進研修会（オンライン開催）
- 目的：「地域学校協働活動」及び「コミュニティ・スクール」の一体的な取組
についての事例発表や協議を通して、双方向の「連携・協働」につい
て理解を深めるとともに、地域の実情に応じた活動や課題の解決策を
考えることで、事業の効果的な推進へとつなげ、地域ぐるみで取り組
む地域学校協働活動の充実を目指す。また、一体的な取組推進の中核
を担う地域コーディネーターの役割や仕事内容についてもより理解が
深まる研修会とすることでスキルアップを図る。
- 主催者：愛媛県教育委員会
- 開催日時：令和4年8月5日（金）13時30分～16時35分
- 会場：【配信会場】愛媛県立図書館 ヤングボランティアセンター
【オンライン会場】各自がオンライン参加できる場所
- 受講対象者：学校・家庭・地域連携推進事業関係者（地域コーディネーター
等）、教職員（特に事業実施地域の先生方）、
市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者、
地域教育プロデューサー、地域教育協力隊、
本事業に関心のある者等
- 参加人数：117名
- 研修内容：
 - 講義 「ボランティアでつながる学校・家庭・地域」
地域の未来をつくるのは子どもたち、
子どもたちを地域の力で育てよう！
 - 講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏
 - 内容 ◎地域学校協働活動とは
◎支援から協働へ 地域学校協働本部の在り方
◎学校支援活動から地域学校協働活動へ
◎どうして今、連携・協働が必要か
◎連携・協働で育つ子どもたち
◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム
◎地域の課題を地域で考える
◎地域課題に学ぶ活動事例

- ◎推進員・コーディネーターの役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動
- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎ボランティアにはどのように協力してもらうか
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う

<主な感想>

- 実践事例と成功までのアプローチの手法が具体的に提示されていて、参考になった。
- 先進的な活動事例を具体的に紹介していただき、コミュニティ・スクールに対するイメージがより具体的になった。
- コミュニティ・スクール導入率 100%の自治体があることに驚いた。本校は組織されていないで済まらず、教職員全員への意識を高めていくことの必要性を強く感じた。
- ボランティアを通して高校生が地域の「ひと・もの・こと」とつながり、主体的に地域貢献活動に取り組む体験を積み重ねる姿が参考になった。
- 「助けられ上手な学校づくり」になれるよう、地域の教育力の掘り起こしにも取り組んでいきたい。
- 公民館職員として、コミュニティ・スクールが成立するには何が課題となるかのヒントになる講演だった。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
（事業推進市町等対象）

■目的：地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙う。

■主催者：滋賀県教育委員会

■開催日時：令和4年8月26日（金）13時30分～16時30分

■会場：滋賀県立男女共同参画センター G-NETしが 大ホール

■受講対象者：コミュニティ・スクール地域学校協働活動市町担当者、
市町立校園関係者
学校運営協議会関係者
地域学校協働活動関係者
県市町の社会教育委員
地域連携担当教職員

■参加人数：159名（会場76名、オンライン83名）

■研修内容：

講義：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
の一体的推進～『次のステージ』への進め方～」

講師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏

内 容

1. CS と地域学校協働活動との一体的推進とあるが・・・
なぜ、一体的推進をするのか
2. 一体的推進の効果は、あることはある・・・
 - 地域学校協働活動
 - 子どもたちにとっていいこと
 - 学校・教職員にとっていいこと
 - 地域にとっていいこと
3. 先進事例から何を学ぶのか。
 - 三鷹市の事例紹介
4. 体制は整いました。
 - 一体的推進の実質化
 - 協働によって「当事者意識」が育つ

5. さらなるステージに向けて

<主な感想等>

- ・学校の教育課程で学んだことが、地域の中で生かされることで、子どもたちの自己肯定感が高まったり、地域に貢献できる機会となったりするということには、「なるほど」と感じました。子どもも、教師も、地域の人も、それぞれに役割があり、当事者意識をもって参加することの大切さについて学ぶことができました。
- ・いろいろな立場の者が一緒になって子どもたちを育てていくとなると難しいことのように思いますが、当事者意識を持ってもらうということをキーポイントとして進めていくという考え方がとても分かりやすいと感じました。
- ・先進事例から、学校は、地域のサポートを受ける立場ではなく、サポートをする立場であるということを知ることができました。学校の教育課程で学んだことを実際に活かし、地域の方々から認めてもらうことにより、子どもたちの自己肯定感に結びつくということを改めて感じました。学校と地域で子どもを育てていくということの重要性を感じました。
- ・山本先生の話拝聴し、「一体的推進」は「一体」ではないということや、形骸化させないためのPDCAサイクルの方法など、今後の活動の推進に活かしていきたいと思いました。
- ・校内体制づくりや担当者づくりがうまくいくかが一つの鍵と感じました。子どもたちが学びたいという気持ちが地域の人と共感できることが大切だと感じました。
- ・やはり中学校区での連携は大切だと思いました。9年間関われば地域との関係も豊かになるのではないかと思います。そこに幼稚園も少し関わらせていただき、「大きくなったらあんな風に活躍できるんだ！」と成長することに喜びを感じてくれたら良いなと思いました。
- ・持続可能であるために、今後につないでいくためにという観点からも、「大きくなって自分がやってもらったことをしに戻ってくる」という中高生の姿や「楽しいかどうか。笑顔が嬉しい」という発表から、「やりがい」や「しあわせ感」が大切なポイントであることを再認識できました。
- ・質疑応答での「高齢化」に関する話題が、自校の課題と重なりました。運営委員会様を含め、高齢な方に依頼する状況が続いています。しかし、その先のことを考えると、スムーズな世代交代ができるようにすることは必須です。新しい人材の発掘にも力を入れていこうと思います。また、「公式SNS」の話題が大変興味深かったです。学校と地域が手軽なツールで広くつながれるようになると、より一層の地域力強化につながると感じました。

- ・「支援」から「協働」への実質化や、「熟議」の必要性などのキーワードが印象に残りました。特に、「当事者意識を持ってもらう熟議」の言葉が印象に残りました。また、今後の問題点として、体制が整ったからこそ学校運営協議会と地域学校協働活動を別々に考えていくこと、PDCAを形骸化させないことなどの、今後の見通しが持てたことを、これからも活かしていきたいと考えています。パネルディスカッションでは、形骸化させないために絶えず様々な方からの声を聴き、子どもも大人も楽しめるのかなどの視点をもって振り返りをしながら進めていくこと等、活かしていきたいと思いました。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度市貝町体験活動・ボランティア活動及び地域における学校との連携・協働活動研修会

■目的：各学校の地域連携教員並びに各学校パートナーシップ事業の中心となるコーディネーター及び活動協力者の資質向上を図り、相互の意見交流の場とする

■主催者：市貝町教育委員会

■開催日時：令和4年8月29日(月) 15時00分～16時30分

■会場：市貝町多目的ホール（オンライン研修）

■受講対象者：地域コーディネーター、学校支援ボランティア、小中学校教職員

■参加人数：16名

■研修内容：

講義 「地域における学校との連携・協働活動の意義と実践事例について」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏

内容

- 1 学校はなぜ協働しなければならないのか。
 - (1) 学校運営への参画を推進する潮流
 - ①東日本大震災の衝撃
 - ②子どもを中心に据えた学校と地域の連携
 - (2) 教育支援活動を推進する潮流
- 2 「支援」から「協働」へ
3. 一体的推進の効果
 - ・子どもたちにとっていいこと
 - ・学校・教職員にとっていいこと
 - ・地域にとっていいこと
4. 先進事例の取組み
 - ・三鷹市の事例紹介
 - ・先進事例から何を学ぶか
5. 一体的推進の実質化のために
 - ・協働が「当事者意識」を育てる

<主な感想等>

- ・協働活動には当事者意識を持つことが大切だと感じた。
- ・地域との協働で防災教育を取り入れている例が参考になった。
- ・地域の避難所となっている本校では、今後防災教育を取り組んでいかなければならない活動の必要性を感じた。
- ・議論の場をもつことができればよいと感じた。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度 館林市社会教育関係職員研修会

■目的：学校を核とした持続可能な地域づくりを目指して、地域や公民館利用団体の方々が主体的にボランティア（地域活動・公民館動）へ参加できるようなコーディネート的手法について学習する。

■主催者：館林市教育委員会生涯学習課

■開催日時：令和4年8月31日（水）14時00分～16時30分

■会場：館林市城沼公民館 2階 講堂

■受講対象者：公民館職員、生涯学習課職員、
向井千秋記念子ども科学館職員、図書館職員

■参加人数：29名

■研修内容：

講義

『体験活動・ボランティア活動の意義とコーディネーターの役割
～ボランティア活動及び団体へのコーディネート方法について～』

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内容

1. 現代社会の特性
2. 社会教育施設の役割
3. 人と人がつながる上で必要なもの
4. コーディネーターの役割
5. ボランティアを「受け止める」ボランティア活動をどう理解するか
6. ボランティアとの出会い
7. ボランティアをどう集めるか
8. プログラム作成のポイント
9. ボランティアを支援する

演習

テーマ 「相談技術を学ぶ（コミュニケーションスキル）」

<主な感想等>

- ・より具体的な事例があったため、参考にすることができる内容が多かった。
- ・ワークショップ・ロールプレイの場があって良かったと思います。3人で意見や考えを出し合うことは、自分の考えを改めて見直すことや新たな意欲につなげていける機会になりました。ありがとうございます。
- ・グループ制により、普段話す機会がない人とも交流をすることができた点が良かった。
- ・ボランティアには、需要と供給のバランスが重要と考える。バランスをとる方法を教えてもらいたい。
- ・今後の公民館のあり方について十分に考えさせられました。新たな公民館となれるよう、一つずつでも改善していきたいと思います。
- ・多くの資料の提出や事例を紹介いただけたが情報が多かったので、飲み込めない部分もあった。ワークショップについては、実態に即した対応で、新たな視点や対応の仕方を知ることができ有効であった。参加者どうしの交流が良かった。設定ありがとうございました。
- ・主体的、対話的で深い学びについて分かりやすく説明していただいた。
- ・相談を受ける側として、相手がどのようなことを求めているのか話の中で深掘りできるようになりたいと思いました。
- ・導入部分の話が難しかった。
- ・現代社会の特性からはじまり、コーディネーターの役割やボランティア活動等について学ぶことができました。また、ワークショップを通して、相手を知ること、信頼関係の大切さが分かりました。ありがとうございました。
- ・これからの公民館での対応などにとっても役に立つ研修でした。とても難かったのですが、楽しく学習できました。ありがとうございました。
- ・ボランティア活動は、個々人の望みをつなぐとても複雑な仕組みだと感じました。(ボランティア人材をひとくくりにできない) だからこそ、ニーズを捉えコーディネートする重要さを感じることができました。
- ・社会教育現場で求められているコーディネーターの役割は、参加者の高齢化・固定化等に伴う困難な部分も多く感じていたが、人的魅力や相談者への傾聴力、情報の共有化により打破できる可能性を感じました。
- ・日本の現状を改めて認識することができた。ボランティアが必ずしもすぐ受け入れられることは難しいことが意外だった。ワークショップで、自分にはない考えをインプットできてよかった。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：第3回 地域学校協働活動推進委員情報交換及び研修会

■目的：学校関係者とパートナーシップ事業の中心となるコーディネーター
及び活動協力者の資質向上を図り、相互の意見交流の場とします

■主催者：蒲郡市教育委員会 生涯学習課

■開催日時：令和4年9月5日（月）14時00分～16時30分

■会場：蒲郡市役所 北棟1F集会室

■受講対象者：地域と学校の連携・協働に関わる役割を担っている
小中学校教職員、推進委員等

■参加人数：41名

■研修内容：

講義 地域学校協働活動とコーディネーターの役割について

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏

内容

1. なぜ、協働しなければならないのか
認識/目標の共有 当事者意識を持つということ
2. 「組織学習」という研究分野
個人学習の成果×学習者数<組織学習の成果
3. なぜ、これまでのやりかたを変えなければならない
のか。
4. 「組織学習」の難しさ
5. 熟議のススメ
6. 先進事例から学ぶ
三鷹市の事例紹介
7. 体制は整いました
協働が「当事者意識」を育てる

演習

ワークショップ
日頃考えている課題→ 分類 → 対策を考える

<主な感想等>

・防災教育は学校+地域の人々で教えることが大事、お互いが協力して、サポーターとなる子どもたちを教育（災害が起きた時活躍できる子を育成）
→まずは防災教育をつなぐ役割としてやってみたいと思った。

・どうしてこの活動を推進していくのか、市民で共有し、いろんな立場の人たちが同じような歩幅で進んでいかなければならないと思いました。

・今回様々な課題が出ましたが、解決する共通項は「話し合いを重ねる」ということに尽きると思いました。

・日頃、自分が参加、活動させていただいていることは、こうした学術的な裏付けがあって行われているのだと、納得し、すっきりと腑に落ちました。様々な場面で「ダブルループ学習」を心がけていきたいと思いました。

・ワークショップは時間が足りないくらいでした。いろいろな方の考えがわかるとよいことだと思いました。

・「支援」から「協働」ということがなんとなくわかったが、まだすっきりしないところが残った。

・納得できる話が多かったが、理想とされる状況になるのはとても大変だということが分かった。「答えのない解を求めている。」というのが印象的だった。まずはスタートからよくしていく必要はないという話は少し気が楽になった。防災活動は協働しやすいように思った。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度相模原市地域学校協働活動研修会

■目的：今年度より市内2中学校区でモデル実施を開始した地域学校協働活動について、各学校の地域学校協働活動事業の中心となる推進員及び活動協力者の理解を深めるとともに資質向上を図り、相互の意見交流の場とするもの。

■主催者：相模原市教育委員会生涯学習課

■開催日時：令和4年9月7日（水）14時00時～16時30分

■会場：けやき会館2階大研修室

■受講対象者：地域学校協働活動推進員、教職員、学校運営協議会関係者、
教育委員会職員

■参加人数：25人

■研修内容：

講義 『地域学校協働活動の意義とプログラム開発について』

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内容

- ・地域における学校との連携・協働活動の意義
- ・地域と学校、推進員の役割
- ・地域学校協働活動の計画立案、コーディネート方法
- ・他市事例
- ・課題 他

演習 ワークショップ

『本日の講義を聞いて気付いた点を共有し、
意見交換しよう』

<主な感想等>

○プログラム全体について

- ・新しい視点が発見できた
- ・学校の先生方にも知ってもらいたい内容だった
- ・地域と教職員、教育委員会が同じ研修を受けることができた

○講演について

- ・事例も豊富で良かった
- ・わかりやすい内容だった
- ・参考になった

○ワークショップについて

- ・もう少し時間が欲しかったが、自分以外の意見を聞いたことは参考になった
- ・いろいろな立場の人からそれぞれの考えを知ることができた

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：令和4年度 地域学校協働活動コーディネーター合同研修会
- 目的：地域学校協働活動の中核を担う人材として、コーディネーターの役割やコーディネート方法について学び、情報交換・共有を行いながら、コーディネーターの重要性を再認識することを目的とする。
- 主催者：佐世保市教育委員会 教育総務部社会教育課
- 開催日時：令和4年9月13日（火）14時00分～16時00分
- 会場：佐世保市総合教育センター2階 中研修室1・2
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員、コーディネーター、学校教職員等
- 参加人数：25名
- 研修内容：

講義	子どもを育む「 ^{えにし} 縁」を結ぶ 地域学校協働活動とコーディネーターの役割
講師	全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興梠 寛 氏
内容	第1章 ボランティア・マインドを教育力に変える 2つの実践事例から考える 第2章 コーディネーターの「壁」を超えるために 人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ 第3章 地域と学校の協働活動はなぜ必要か 第4章 シェアして学びあうワークショップ
演習	課題解決ワークショップ つながる、つなぐ、わかちあう 意見交換「コーディネーターの課題と解決策」 グループ報告と講師コメント

<主な感想等>

- ・コーディネーターとして今後どのように活動していけばいいか参考になった。
- ・先進地区の話がとても参考になり、今後の活動の参考にさせていただきたいと思った。
- ・講師の話がおもしろくて、もっとたくさんの方々（保護者や地域の方、先生方）にも聞いてもらいたいと思った。
- ・具体例が多く“自分たちでもできるかも”と思わせてくれた。
- ・講演だけでなく、情報交換ワークショップがあったのがよかった。
- ・立場が違う人たちとの情報交換のよい機会になり、今回の研修で人とのつながりができた。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度コーディネーターステップアップ研修

■目的：幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動の推進に向けて、地域学校協働活動（学校応援団活動・放課後子供教室等）の人材を育成する。

■主催者：埼玉県教育委員会

■開催日時：令和4年9月16日（金）13時30分～16時30分

■会場：埼玉県県民健康センター

■受講対象者：放課後子供教室コーディネーター、
放課後児童クラブスタッフ、学校応援コーディネーター、
行政職員等

■参加人数：40人

■研修内容：

講義「地域・学校が効果的に協働していく地域学校協働活動の
在り方」

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光 氏

内 容

1. 平成27年12月中教審答申
2. 子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」
3. 連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」
4. 連携・協働のしくみ
5. 「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へ
6. 次のステップへ（R2～R4）
7. 推進員（コーディネーター）の役割
8. 地域学校協働活動の持続可能性
9. ボランティアの可能性が高い人々
10. 今後の方向性：学校を核とした地域づくり
社会に開かれた教育課程
11. 地域資源
12. 地域資源を活用した学習プログラム
13. プログラム作成のポイント
14. 学校を核とした地域づくり

15. 他の地域の事例
16. 連携・協働で育つ子供像
17. コミュニティスクールと地域学校協働活動の課題
18. その課題解決策
19. CS 事例紹介 鳥取県南部町
20. 地域学校協働活動の有効性

演 習 ○グループ協議 KJ 法 によるワークショップ
「これからのコーディネーターに求められること」
グループでの協議内容を発表し、全体で共有した。

<主な感想等>

- 子育てには、地域の力、学校・行政・保護者の連携・協力をどう得られるか考えていくことが大切であることを学んだ。
- 多くの人を巻き込んで、活動に参加してもらう方法を考えることが大事であると感じた。
- 学校内に地域住民が集まることのできる空間を作ることを学校に提案したい。先生方とボランティアさんとのコミュニケーションを図る場を作りたい。
- 学校と地域の窓口になるために、学校にもっと顔を出したい。
- 体験学習を掘り下げて、子供の生きる力を向上させたい。
- 体験活動から社会 貢献活動にすることで、児童生徒の成長の場、地域の人の成長の場になることが分かった。
- ワークショップをとおして、参加者みんなが子供を愛していることがわかった。
- ワークショップで、「コーディネーターは全て自分でやるのではなく、仕掛けを作り他の人を上手に動かしていくこと」を先生が話され、次の人材のためにも自分はどうすればよいか動いていきたい。
- 出来ないではなく、変えることが出来るよう、地域も学校も一緒になって取り組むことが必要と強く感じた。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：委員長・地域コーディネーター研修会

■目的：地域の教育力をいかした子ども・学校支援の在り方について
考える機会とする

■主催者：海老名市学校・地域ネットワークづくり運営委員会
海老名市教育委員会

■開催日時：令和4年10月18日（火）10時30分～12時00分

■会場：海老名市役所4階 401会議室

■受講対象者：学校応援団運営委員長・地域コーディネーター
学校・地域ネットワークづくり運営委員会委員
海老名市教育委員会指導主事

■参加人数：32名

■研修内容：

講義 地域における学校との連携・協働活動の意義と
コーディネーターの役割

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次郎 氏

内容

1. はじめに
2. 現在、地域は多くの課題を抱えている
3. 現在、教育も多くの課題を抱えている
4. 学校・家庭・地域の連携の必要性
5. 国の答申等に見る学校、家庭、地域住民等の連携・協働
の必要性
6. 地域学校協働活動の方向性
～連携・協働と総合化・ネットワーク化～
7. 改めて、地域学校協働活動の意義を考える
8. 地域学校協働活動の内容
9. コーディネーターの役割
10. 皆さんへの期待

演習 ワークショップ「地域学校協働活動を推進するために」

<主な感想>

○研修会資料に掲げられていることをどう推進できるのか、時間はかかると思われるが、積み重ねが大切だと感じる。

○文科省の動きに沿ったことということを再認識しました。

○自分が今までやってきていることの重要性を感じ、点から線の活動性を感じました。もっと多くの人を巻き込んでいくためには…考えさせられました。

○ワークショップでは有意義な意見交換ができたのでよかった。

○ワークショップの時間にいろいろな意見が聞けてよかった。

○応援団の本部を公民館に設置しているということが良いなと思いました。学校から地域へ移行していく時期に来ているのかなと思います。

○仕事？ボランティア？そこが違うと思う。ボランティアではいつまでも続かないし、新しく続けてくれる人は出てこないですよ。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：丸亀市地域コーディネーター養成塾

■目的：地域コーディネーターの役割を学び、学校と地域の橋渡し役を担う人材を育成する。

■主催者：丸亀市生涯学習課

■開催日時：令和4年10月19日（水）15時30分～20時00分

■会場：市民交流活動センター「マルタス」多目的ホール1

■受講対象者：地域コーディネーター、学校関係者他

■参加人数：24名

■研修内容：

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子

第1部：【ワークショップ】
コーディネート（連絡・調整・助言・指導・人材育成）
の方法について

第2部：【講義】
地域における関係機関（学校、その他団体等）との
連携・協働活動について
（全国の先進地の事例紹介を交えて）

内 容

- ◎地域学校協働活動とは
- ◎学校支援活動から地域学校協働活動へ
- ◎地域の教育資源
【地域の宝】を活用した学習プログラム
- ◎ワークショップ
地域のお宝で地域を学ぶ
地域を学ぶためのカリキュラムを作る
- ◎どうして今、連携・協働が必要か
- ◎連携・協働で育つ子どもたち
- ◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
- ◎地域の課題を地域で考える
- ◎事例紹介
- ◎推進員・コーディネーターの役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動

- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎ボランティアにはどのように協力してもらうか
- ◎活動事例

<主な感想等>

- ・ボランティア人材の集め方が参考になった。
- ・子どもたちから大人へ働きかけられる活動も学校とともに考えていきたいと思った。
- ・自分の引き出しでは限界があるので、情報共有したり今日のような研修会で学ぶことも大切。
- ・鎌倉などの具体的活動事例を教えていただき参考になりました。
- ・今日の内容はどれも参考になり納得できたが、情報量（活字）が多すぎてなかなか整理が難しい。
- ・ワークショップではいろいろな人の話が聞けて、立場や考えの違いが分かってよかった。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

■研修名：令和4年度かごしま地域学校協働活動研修会【鹿児島会場】

■目的：地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、地域学校協働活動推進担当職員（社会・学校関係者）等を対象として、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子供の成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するために必要な知識や技術の習得、資質の向上及びネットワークづくりを図る。

■主催者：鹿児島県教育委員会

■開催日時：令和4年11月22日（火）9時50分～14時45分

■会場：かごしま県民交流センター（2階 大ホール）

■受講対象者：地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、統括的なコーディネーター、小・中学校、高等学校の教職員（令和4年度フレッシュ研修対象講座）、市町村教育委員会及び教育事務所の学校教育・社会教育担当者等

■参加人数：142人（対面出席者75人、オンライン出席者67人）

■研修内容：

講義 子どもを育む『縁』を結ぶ
～地域における関係機関との連携・協働について～

講師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏

内容 「ボランティア活動」
「人と人、人とコミュニティの『縁』を結ぶ
コーディネーターの役割」
「よりよいコーディネーションのために」
「2つの実践事例」

演習 コーディネート及びファシリテーションの方法について

4つの視点「学校の課題」「地域とボランティアの課題」
「コーディネーターの課題」「教育行政の課題」をもとに整理し、意見交換を実施、グループメッセージを作成し全体でシェア

<主な感想等>

○地域の方々と共に生徒を見守りたいと改めて思うことができた素晴らしい機会となりました。ありがとうございました。

○コミュニティカレンダーなどを活用して、ある程度の予定が分かっていたら、ボランティア活動がスムーズにいくと思いました。

○とても参考になりました。現在ボランティア育成講座を実施しています。ボランティアの敷居を低くすることの示唆をいただき、感謝です。

○教えるのは先生の役割で、支えるのがボランティアの役割という言葉が印象に残りました。また、子どもが社会のために学習したことを駆使して何か行動するように支援するのが学校の役割だと教わり、この視点を踏まえて指導していきたいと思いました。

▲講義後、質疑応答の時間があるといいと思いました。

▲県内の実践事例を基にした研修内容も入れていただき良かったです。

▲ワークショップの時は映像だけでしたが、どこかのグループを抽出して話し合いの様子を視聴できるとありがたかったです。

令和4年度体験活動・ボランティア活動及び地域における 学校との連携・協働活動のコーディネーター養成研修（報告書）

- 研修名：地域と学校の連携・協働に係る研修会
- 目的：学校と地域が連携・協働した活動の推進を図るため、地域学校協働活動や学校を核とした地域づくりの在り方について研修する
- 主催者：山梨県教育庁生涯学習課
- 開催日時：令和4年11月29日（火）13時30分～16時40分
- 会場：山梨県総合教育センター 第1研修室（オンライン開催）
- 受講対象者：学校教職員、学校運営協議会委員、地域コーディネーター、PTA、市町村職員、教育事務所職員等
- 参加人数：160名
（オンライン開催のため、参加アカウント数による。複数名で視聴の場合も1名として計上。）

■研修内容：

講 義 「子どもを育む『縁』を結ぶ」
～地域と学校の連携・協働とコーディネーターの役割～

講 師 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 興梠 寛 氏

内 容

子どもたちに実体験を伴う学びを提供するために、地域（学校外）の関わりは不可欠である。この実現に、人や団体とつながり、それをつなぐ縁結人であるコーディネーター等が求められる。「志は高く、（活動の）ハードルは低く」というボランティアの在り方や地域をつなぐコーディネーターの役割等について事例を交えながらお話いただいた。

木更津市や横浜市の事例では、学校内にコーディネーターやボランティアが常駐するボランティアルームやCS本部を設置したり、小中学校と地域の行事等の情報を掲載したコミュニティ・カレンダーを活用したり、行政が体制づくりに関わり、企業やNPO等の団体が活動支援する事例を示していただいた。

<主な感想>

講演について

- 木更津と横浜の実践例は、大変興味深いものであった。予算0という厳しい状況でも、このようなことができていることは目から鱗であった。また、「やってあげる」や「教えてあげる」という考えではなく、「子どもに教えてもらう」だとか、「できていることを褒める」という関わり方で、ボランティアが成立するという観点は、とても大事なことだと改めて感じた。こうした関わりで、子どもたちの「自己効力感」は育つのだと納得できた。
- 冒頭の子どもを育む「縁」を結ぶ、つながる、つなぐ、わかちあうの言葉がとても心に残り、縁結び人になれたらと思いました。サポーター確保の難しさを感じているので、世田谷区のように中間支援機関に支えられていることはとても羨ましく、信頼できるつなぎ役のプロ、システムの確立が必要だと強く感じました。
- 学校という単位だけではなく、地域や社会といった単位で子どもたちのことを考えることが本当に大切なのだと思います。様々な教育課題を学校だけで考えるのではなく、様々な団体との連携の中で考えていく必要があることを学びました。
- CSを行っているについ、地域と関わるのが目的のようになってしまっていた自分に気付かされた。CSを行う本来の目的や大切なことを改めて見つめ直し、自校のCSに生かしていきたいと思った。

全体について

- 「地域の人がかどもをほめること」「子どもの目線から」「小さな成功体験の積み重ね」「コーディネーターの存在が大切」「少年は必要とされたときはじめて大人になる」など多くの強いメッセージをいただいた。